

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01310

研究課題名(和文) 復帰前後の沖縄における基地と開発をめぐる住民運動に関する実証的研究と資料整備

研究課題名(英文) Empirical Research and Documentation of Citizens' Movements against Bases and Development in Okinawa before and after Reversion

研究代表者

鳥山 淳 (TORIYAMA, Atsushi)

琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授

研究者番号：60444907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)： 復帰前後の沖縄における住民運動の研究基盤を充実させるために、石油備蓄基地の建設に反対した「金武湾を守る会」の資料、米軍による土地使用に反対した「伊江島土地を守る会」の資料、嘉手納基地に隣接するコザ市の市長をつとめた大山朝常の資料を調査し、その内容の分析と活用の促進を図った。3つの資料それぞれについて、資料目録を作成して300～400点の重要な記録を抽出し、デジタル画像化による資料整備を進めた。また伊江島の写真記録を調査し、その成果が3つの写真展の企画において活用された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が調査した資料群の活用によって、沖縄現代史研究の資料的な基盤が強化され、研究が促進されることが期待される。復帰前後の沖縄における運動の展開については、復帰運動に収斂する動きを除いては従来の研究で十分に記述の対象とされてこなかったため、本研究によって提示された新たな資料群によって研究の進展が可能となる。

また当該期の資料については散逸・消失が懸念される状況にあるため、本研究によって資料整備・活用の具体的方法を例示することによって、住民運動の記録を整理し活用につなげていく取り組みを活性化することができる。

研究成果の概要(英文)： In order to develop a solid foundation for research into citizens' movements in Okinawa around the time of its reversion to Japan, this research looked into materials related to the protests against the construction of the Central Terminal Station in Kin Bay and against the requisition of land by the U. S. military in Ie Island. It also surveyed materials concerning Oyama Chojo, one-time mayor of Koza City adjacent to Kadena Air Base.

The content of these materials was then analyzed and the promotion of their use was studied. As a result, a list for each of these three groups of materials was compiled, and digital images of the records were created after the selection of 300-400 essential items. Moreover, the photo records of Ie Island were studied, the outcome of which was utilized in three exhibition projects.

研究分野：沖縄現代史

キーワード：沖縄 復帰 住民運動

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1960年代から70年代を対象とした沖縄現代史研究においては、米国公文書などの調査に基づいた実証的な研究が蓄積され、占領下の沖縄における基地政策・占領政策の解明が進展してきたが、それと対峙する立場にあった沖縄住民側の動向については詳細な研究が手薄な状態が続いてきた。その最大の理由として指摘できるのは住民運動に関する資料不足であるが、その関連文書は個人・団体レベルで所蔵されているケースが大半であり、県内大学や公的機関による調査・収集もほとんど進んでいないため、散逸・消失が懸念される状態にある。本研究による資料調査と分析は、沖縄現代史研究の資料的な基盤を強化し、今後の研究促進につながるものである。とりわけ復帰後の時期に関しては、これまで歴史記述の対象とされてこなかったがゆえに、資料の散逸・消失が懸念される状況にあるため、その調査と活用の具体的な手法を実践・提示することが重要である。

1960年代の沖縄において問われ始めたのは、復帰の是非だけではなく、「基地依存からの脱却」という課題であった。それを実現するための方策として1960年代後半から登場してくる開発構想は、一方では復帰後の地域振興策として期待を集めるが、他方では地域の生活基盤の破壊が危惧されるようになり、70年代にはその賛否をめぐって住民間での分断・対立が激化した。それゆえに基地問題と開発問題は「基地依存からの脱却」という課題を通して地続きであり、本研究が焦点を当てる運動はその結節点に位置している。そのような住民運動を実証的に分析することによって、復帰過程に収斂されてきた沖縄現代史の論点を多様化し、関連する諸問題を多角的に論じる視座を提示するとともに、復帰後の状況に関する研究の論点を明確化することに寄与すると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、1960年代から70年代の沖縄において基地と開発をめぐる争点を形成した住民運動に焦点を当て、運動当事者が作成した資料を調査・分析するとともに、その公開・活用の促進を図るものである。基地と開発という二つの問題が交錯する特定の地域や時期に焦点を当てて、その渦中にあった地域住民の意識のあり方やその生活基盤などを検証することを通して、復帰前後の沖縄社会が直面していた状況を構造的に記述する視座を提示することが、本研究のねらいである。そのために本研究では、これまで利用が困難な状態にあった個人所有の資料群をふくむ関連資料を調査し、あわせて資料へのアクセスを確保する方法を講じることによって、今後の研究環境を整備していくことを目的としている。

3. 研究の方法

本研究における調査・分析の中心的な問題設定は、「基地依存からの脱却」という課題に対して1960~70年代の沖縄において地域住民がどのような対立や矛盾に直面し、その渦中でどのような自己認識や歴史意識を作り出していったのかという点にある。それは復帰後の沖縄社会においても繰り返し問われていく課題であるため、調査・分析の対象期間は復帰をまたぐ約20年間とし、その期間における住民運動の関連資料を調査・分析するとともに、当該資料へのアクセスを可能とするための研究環境の整備を図る。具体的には、次の3つの資料群を対象とする。

- (1)米軍による土地の強制使用に対峙した「伊江島土地を守る会」の資料
- (2)石油備蓄基地(CTS)建設計画に反対した「金武湾を守る会」の資料
- (3)嘉手納基地に隣接するコザ市の市長をつとめた大山朝常氏の資料

上記の資料群について、目録データを作成したうえで詳細な分析を行い、資料的な価値を明らかにするとともに、重要な資料を選別してデジタル画像化を行い、それをういて資料の公開・活用を図る。

4. 研究成果

(1)「金武湾を守る会」の資料については、研究分担者の上原に運動関係者から全資料が寄贈されたため、東京外国語大学で保管しながら調査・分析を行った。資料概要を把握するためのリストを作成し、同会が定期的に発行していた通信、住民や支援者に配布していたビラやチラシ、埋立中止を求めた同会の裁判闘争の記録、沖縄県内の支援団体の取り組みに関する記録、県外の開発問題・環境問題に関する諸団体との交流の記録などを確認した。そのうえで同会の活動を分析するうえで重要な資料を選別してデジタル画像化し、その資料目録を作成した。同会の定期的な発刊物から公開を進める計画を作成し、デジタル画像を閲覧に供するための準備作業を行った。

また同会の資料の成り立ちに関する研究成果として、資料を長期的に保管してきた崎原盛秀

氏に関する論考を上原が発表した（(上原こずえ「崎原盛秀氏の人生と運動の思想を振り返る」『越境広場』9号、2021年）。

(2)「伊江島土地を守る会」の資料については、伊江村における調査活動が制限される状況をふまえて調査対象を限定し、同会の中心的存在であった阿波根昌鴻氏が1960年代に撮影した写真記録の調査と活用を優先的に行った。該当するネガフィルムの保存措置を講じたうえでデジタル画像化とリスト作成を進め、その内容と資料的価値を明らかにするための分析を行った。その成果をふまえて、2022年から2024年にかけて開催された写真展に資料を提供し、写真記録を通して沖縄現代史の考察を深める取り組みに貢献した。具体的には、「島の人々 戦後伊江島・阿波根昌鴻写真展」(伊江村・2022年2月、浦添市美術館・2022年11月)、「阿波根昌鴻 写真と抵抗、そして島の人々」(丸木美術館(埼玉県)・2024年2月)の企画において写真記録に関する調査・研究の成果を提供した。

また伊江島の土地闘争の記録が有する歴史的な意義について、研究代表者の鳥山が資料の特徴と調査の意義に関する論稿を発表した(鳥山淳「常識をゆさぶる資料群 阿波根昌鴻とたたかいの記録」『世界』941号、2021年)。2024年3月に伊江島で開催されたシンポジウム「阿波根昌鴻の遺した写真・資料から見る 沖縄戦後史、現在、未来」では、鳥山が資料調査活動の方法と成果について研究発表を行った。

(3)大山朝常資料については、これまでの調査活動によって作成された資料目録に依拠して重要資料の選別を行い、デジタル画像化を行った。主な資料内容は、コザ市の行政記録、市長および市当局と米軍当局や歓楽街の業者団体との間で交わされた協議の記録、市長が所属していた沖縄社会大衆党の資料、中部地域の住民福祉に関する報告資料などである。

関連する研究成果の発表として、沖縄社会学会第3回大会・シンポジウム(2020年)において、研究分担者の上原と秋山が復帰前後の沖縄における住民運動・社会運動の検証に関する報告を行い、基地周辺地域における住民の動向と大規模開発に対する住民の対応をふまえた研究成果を発表した。

(4)沖縄の「復帰50年」をめぐる企画において、本研究の成果をふまえて復帰前後の状況と運動を分析する意義を提示した論考を発表した。具体的には、鳥山淳「「返還50年」の沖縄をどうとらえるか」(『歴史地理教育』939号、2022年)、上原こずえ「「生存の危機」にある沖縄戦後の運動史を捉え直す」(『年報日本現代史』27号、2022年)、秋山道宏「戦後沖縄の歴史はなにを問いかけるのか」(『平和運動』613号、2022年)などがそれに該当する。また2022年7月に発刊された『沖縄県史各論編7 現代』では、鳥山・上原・秋山が復帰前後の政治社会運動に関するテーマを執筆し、本研究の成果を活かした歴史記述を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 秋山 道宏	4. 巻 675
2. 論文標題 戦後沖縄の「暮らし」と「いのち」：基地問題の歴史と現状から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 医療労働	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山 道宏	4. 巻 28
2. 論文標題 「危機の時代」の戦争と平和のリアリティ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 唯物論研究年誌	6. 最初と最後の頁 183-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山 淳	4. 巻 939
2. 論文標題 「返還50年」の沖縄をどうとらえるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山 淳	4. 巻 46
2. 論文標題 沖縄現代史における「労働」から持続的・構造的な変化を考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 沖縄史料編集紀要	6. 最初と最後の頁 90-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原 こずえ	4. 巻 27
2. 論文標題 「生存の危機」にある沖縄戦後の運動史を捉え直す	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報日本現代史	6. 最初と最後の頁 139-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原 こずえ	4. 巻 306
2. 論文標題 施政権返還後の福祉労働者の闘いが提起した人間排除のシステムの問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生活経済政策	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山 道宏	4. 巻 613
2. 論文標題 戦後沖縄の歴史はなにを問いかけるのか：日本復帰50年目の節目に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平和運動	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原 こずえ	4. 巻 9
2. 論文標題 崎原盛秀の人生と運動の思想を振り返る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 越境広場	6. 最初と最後の頁 141-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山 淳	4. 巻 54
2. 論文標題 3 沖縄をめぐる依存 / 自立の議論を再設定するための歴史的文脈 1950～60年代の政治社会状況を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 47～69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50848/psaj.54004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山 淳	4. 巻 910
2. 論文標題 鳥ぐるみ闘争と辺野古の「選択」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山 淳	4. 巻 941
2. 論文標題 常識をゆさぶる資料群 阿波根昌鴻とたたかひの記録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 212-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原 こずえ	4. 巻 76(2)
2. 論文標題 食べるための労働を問い直す 一九七〇～八〇年代の沖縄青年労働者たちの「自立」と「相互扶助」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 鳥山 淳
2. 発表標題 阿波根昌鴻資料調査の取り組みと意義について
3. 学会等名 わびあいの里第22回学習会「阿波根昌鴻の遺した写真・資料から見る沖縄戦後史、現在、未来」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 上原 こずえ
2. 発表標題 1970 - 80年代の開発をめぐる住民運動（金武湾反CTS闘争）資料 が示す 「開発」力学の環太平洋地域における同時代性
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山 道宏
2. 発表標題 オキナワにおける軍事化と生活/生命の安全保障
3. 学会等名 経済理論学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山 道宏
2. 発表標題 戦後沖縄にみる「交渉」のレパートリーと民主主義
3. 学会等名 日本交渉学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山 道宏
2. 発表標題 戦争と平和をめぐる「リアリティ」の現在と沖縄・民衆意識
3. 学会等名 第23回日韓民衆史共同ワークショップ
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 秋山 道宏
2. 発表標題 基地社会・沖縄の生活と生命をめぐる運動：日本復帰50年の地点から考える
3. 学会等名 日本平和学会春季研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥山 淳
2. 発表標題 沖縄をめぐる依存 / 自立を問い直す歴史的文脈について
3. 学会等名 日本平和学会2021年度春季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳥山 淳
2. 発表標題 米軍占領下の沖縄社会が抱えた葛藤
3. 学会等名 京釜大学人文韓国プラス事業団第3回海外学者招聘フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kozue Uehara
2. 発表標題 Invasion of Militarism in Our Lives and Culture
3. 学会等名 Inter-Asia Cultural Studies Society, International Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kozue Uehara
2. 発表標題 Kaho 'olawe, Kisenbaru, and Kin Bay: Towards a new transpacific commons against U.S. military capitalism
3. 学会等名 A Community Symposium on Critical Nikkei Studies
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山 道宏
2. 発表標題 「沖縄問題」をつきくずす地域研究：60年代沖縄の基地社会の動きに着目して
3. 学会等名 2021年度沖縄国際大学協定校間国際学術交流講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原 こずえ
2. 発表標題 運動と生活のはざまで：資本主義に抗う沖縄青年労働者の自立と相互扶助
3. 学会等名 沖縄社会学会第3回大会・シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋山 道宏
2. 発表標題 1970 / 80年代沖縄を問う視座：沖縄の「豊かさ」再考
3. 学会等名 沖縄社会学会第3回大会・シンポジウム
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 秋山道宏 宮城弘樹 野添文彬 深澤秋人 新里貴之 山田浩世 藤波潔 前田勇樹 川島淳 市川智生 吉川由紀 伊佐真一朗 謝花直美 佐藤学 小濱武 古波藏契 澤田佳世 西岡敏 我部大和 納富香織 月野楓子 及川高	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 239
3. 書名 大学で学ぶ沖縄の歴史	

1. 著者名 鳥山淳 上原こずえ 秋山道宏 前泊盛博 宮城晴美 仲本和彦 林博史 黒柳保則 川平成雄 粟国恭子 三島わかな 若林千代 戸邊秀明 小野百合子 古波藏契 謝花直美 宮城修 中島琢磨 大野光明 小濱武 明田川融 土井智義 宮田裕 野添文彬 佐道明広 照屋寛之 普天間朝佳 河村雅美 前畑明美 小松寛 嘉数啓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 沖縄県教育委員会	5. 総ページ数 714
3. 書名 沖縄県史 各論編 7 現代	

1. 著者名 前田勇樹 古波藏契 秋山道宏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ポーターインク	5. 総ページ数 232
3. 書名 つながる沖縄近現代史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上原 こずえ (UEHARA Kozue) (60650330)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	秋山 道宏 (AKIYAMA Michihiro) (90813767)	沖縄国際大学・総合文化学部・准教授 (38001)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小屋敷 琢己 (KOYASHIKI Takumi)		
研究協力者	富善 一敏 (TOMIZEN Kazutoshi)		
研究協力者	高江洲 昌哉 (TAKAESU Masaya)		
研究協力者	高科 真紀 (TAKASHINA Maki)		
研究協力者	蓮沼 素子 (HASUNUMA Motoko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	安藤 正人 (ANDO Masahito)		
研究協力者	山根 頼子 (YAMANE Yoriko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関